

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年8月17日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100785		
法人名	株式会社 クローバー		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	〒731-1141 広島市安佐北区安佐町鈴張2687 (電話) 082-810-2280		
自己評価作成日	令和2年6月17日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100785-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年7月26日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

どこか懐かしい雰囲気を持ち続け、至る所に遊び心を維持し続けようとしている場所である。当事業所は「相手本意の心」を施設理念に「地域になじむ新しい施設の創設」をテーマに自然豊かな町で「ここにしかない場所づくり」を目指している。建物は平屋で安定感がある木造づくりであり、息をし続ける建物構造に工夫をした。施設は「暮らしの空間」と「おもてなしの空間」が区分され、入居者自らが家人と過ごすことのできるラウンジや応接室等がある。また、隣接した社会福祉法人との交流も盛んであり、地域交流スペースや子供カフェ並びに地域のボランティアによる各種行事が盛りだくさんである。家人や職員の理解と協力のもと、入居者の「今」を見つめるケアの在り方を探り続けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

法人理念の「相手本意の心」には人だけではなく物や関係にもつながる考え方であり、各種会議や業務前に唱和を行うことで施設全体での共有が図られている。各職員も理念をもとにした年間目標を立てることで、日々のケアに反映され、ケア向上にもつながっている。地域とのつながりも強く、夏祭りでの神楽上映は地域資源の活用としての一面もあり、花火の打ち上げなど地域住民も多く参加している。つながりの強さを示すものとして地域の蔵を閉める際には声をかけてもらえ、調度品や食器などの寄付がある。施設内には様々な絵画や置物があり、そのほとんどがそういった寄付で賄われている。職員はインカムを装着しており、利用者の移動時など連携がとりやすい関係もあり、ユニットの鍵などは閉めず、廊下や事務所へ出向きお茶を楽しまれる利用者もおり、思いに添え、実現に常に尽力している。

自己評価	外部評価	項目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域への貢献・社会福祉を担う者の育成を使命とし開放された施設運営を心掛ける。職員全員で施設の理念を共有し、実践につなげるため、立ち止まる場所、振り返る場所は「施設理念」であると伝え続けている。また、朝・夕の申し送り時、各会議開始時は理念の唱和を行い、職員間の意識を高めている。また、ユニット内にも理念を掲示している。	法人理念として「相手本意の心」を掲げ、日々のケアに取り組んでいる。理念の相手とは人だけでなく、物や関係、地域と多岐にわたる事柄に対し思いやるという意味が含まれている。職員個人としても理念を基に年間目標を掲げることで日々のケア向上に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	年間を通じて広報誌を発行し、近隣地域へ新聞の折り込みに入れ、広報している。SNSによる発信も行っている。コロナ禍で行事も難しいが、駐車場を開放し、保育園との交流や、小学校の福祉学習の場の提供は継続している。感染症対策予防を講じる中でこそ、今しかできない、今だからできることにこだわっての交流を行っている。	コロナ禍により地域行事の中止が続く中、法人駐車場を使用した神楽上映や消防局楽団の演奏など実施し、地域との交流を継続している。法人内ホールの地域への貸し出しをしており、ボランティアや児童の放課後の受け入れなどに活用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	AED使用方法、防火・防災訓練を地域合同にて実施している。継続した介護職員初任者研修講座を実施している。施設長は、広島県全域にて地域包括支援センター、教育機関、一般財団法人、各種団体企業と連携を図り、認知症講座を開催している。介護職員の現任、初任者研修講師として啓蒙活動を積極的かつ継続的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議や家族会にて施設サービスの報告を行っている。今後、計画している行事予定などの情報交換を行い、そこで出された意見を再考し、反映させている。コロナ禍において、書面での家族会の開催が継続しているが、面会時やサービス担当者会議時には、ご家族の意見を聞かせていただいている。	通常時、運営推進会議を家族総会や行事と合同で行うことで多くの家族の出席につながり、意見の集約に努めている。コロナ禍により開催できていないが関係機関・家族へは事業報告だけでなく、アンケート形式の書面を送付し、寄せられた意見を運営に反映している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	広島市・広島県の福祉関係機関担当者等との連絡、連携をとり、事業所の実績やケアサービスの取組みについて協力関係を構築している。また、運営推進委員等との連携を計画的に図るため、広報誌を配布し、毎月の行事案内をSNSを利用し、連絡を密にしている。	保険者とは法人事務部が主に様々な連携を集約し対応することでより密接な連携を可能としている。法人内研修では市からの紹介の講師を招いたり、初任者研修の会場となるなど法人と保険者との相互の関係を構築している。	

自己評価	外部評価	項目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	委員会を中心とし、年間を通じて各研修を計画的に実施し、身体拘束の研修やコンプライアンスを主とした研修等を行い指定基準の禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解するように努めている。また夜間並びに休日の事務職員不在時は、入居者の安全確保と防犯上の観点から暮らしの空間とその他の空間を施錠するがその他の時間帯は行っていない。	法人内研修を定期的に行い、各ユニットごとにOJTを行うことで各職員が身体拘束について知識を深めている。また、インカムを使用することでスピーチロック防止につながり、各ユニットが連携を取り、利用者の思いに沿う介護を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	尊厳あるケアの提供に努め、虐待、人権同和研修を施設内で行い施設外での研修への参加も行う。職員が自己研鑽できる環境で虐待などを見過ごすことがないように注意し、勇気を持って発言できる環境、防止に努め、豊かな人間性の育成、職員指導に重きを置き言葉による虐待もあることを職員間で日々意識し未然に防げるように対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見人がいる入居者について個々の必要性を関係者と話し合い、日々の状況をライン等にて報告すること等を実施している。入居者の状況と家人の思いが大幅に異なる場合等は、昼夜にわたり後見人と連絡を密にし、状況の共有を図る。管理者のみが家人等へ連絡するのではなく担当職員が家人へ毎月手紙を出す等、全職員で個々に応じた接点を持つ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関する説明と同意について最低2時間を使い、契約までに入居者、家人の見学を原則とし入居者本人の納得の上で家人と共に、入居に向けて分かりやすく説明を行い、理解・納得を得られるように努めている。また不安や疑問点を尋ねやすい状況を作るために連絡しやすい環境を個々に設置し、意見や要望を日々受け付けられるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍で会議開催を見送る状況が継続しているが、書面にて、入居者や家人の意見や要望を受け入れ、運営に反映する努力している。外部評価の受審により家人に対する匿名アンケートや職員個々がアウトカム項目のチェックを実施することで現在の運営を振り返ると共に、さらに基本を大切に自己確認をする機会を得ている。	コロナ禍のため家族会や面会を制限せざるを得ない状況が続いている。その中でもアンケートの送付やSNSを活用することで情報提供や意見の集約に努めている。得られた意見は事業所全体で検討し、ケアプランと連動させ実現している。	

自己評価	外部評価	項目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日の朝夕礼、週単位で実施される連絡会議、月1回実施される、主任会議、経営会議、職員会議、レクカンファレンス、ケースカンファレンス、委員会会議等、適宜実施されるユニットカンファレンス、職員個別面接等を実施している。また、職員の意見を反映し、ピザやラーメンの出店を施設内で行い、実施している。	各種会議には理事長が同席することで各職員の思いを汲み上げ、実現する仕組みを構築している。実際に職員意見として、ケータリングだけでなく「母の日バーベキュー」と題し、地域、職員家族合同での行事を実施し、毎年恒例の行事として定着している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面接・経験値等を考慮して給与や分掌を精査している。不得意な部分を積極的に指導するのではなく個々の得意な事を業務に活かせるよう区分し付帯的に不得意な業務が向上できる努力している。有資格者の確保と常勤職員の登用により介護職員処遇改善加算を毎月支給している。有給休暇に関しては有給休暇管理簿にて管理し、シフトを作成している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内研修を定期的実施し、適宜施設外研修に参加する等、職員教育を実施している。認知症実践者、リーダー研修を年間1名以上施設負担にて受講できるようにし、キャリア段位制度におけるOJTを実施する評価者を施設内に配置している。独自の目標管理シートにより、個別面接を定期的実施し、個々のスキルアップへの取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域包括支援センター等同業者との交流、ネットワークづくりや、介護支援専門員等の勉強会等に施設提供を行うことにより、サービスの向上を図る取り組みを実施している。また、隣接する介護老人福祉施設、地域の小学校・保育園等とのネットワークづくりに努め、相互のサービスの質を向上させる取り組みを実施している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にはご本人の生活している環境の確認、面談を行い、現在の状況を把握し不安の解消の礎となれるよう努力する。原則本人が居室環境の選択並びに決定を行い、入居日には、本人の希望や不安なこと等を担当者がアセスメントし、ケース担当者等と共に、ケースカンファレンス後、ケア計画書を作成し、本人や家族へ説明同意を実施している。		

自己評価	外部評価	項 目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設見学やインテーク並びに自宅訪問については事前にアポイント時間を3時間設定し、ゆとりをもって接することを心掛けている。契約時は要望や気づきを相互に耳を傾けられるよう、環境を整えている。また、施設長との連絡を24時間可能としており、メール、電話、SNSを利用した関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居開始では地域包括・居宅や入院先等の照会、引っ越し業者の紹介等の紹介を行うなど、個々の必要としている支援を実施している。また、入居対象とならない入居希望者には、他施設等の紹介、一時的に医療が必要な場合には、その関係機関並びに本庁関係課に照会をかける等、本人や家族が必要としているものを早期に対応する努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者のタイムテーブルについて、時間を決めることなく、入居者と共に暮らす生活を送れるような関係づくりを築けるよう、努力している。入居者が職員と共に主体的な生活者としてサービスを利用し続けられることができるように、計画している。また、できることはしっかり声掛けを行い、お手伝い等を行っていたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍の中であっても、感染症対策を講じ、家族面会を1日3組と限定し実施している。あわせて、看取り期の入居者のご家族については、面会制限を設けず、対応している。一方的な介護とならないように、入居者の担当職員から毎月手紙を送付し、家人と共にケアできるきっかけを日々探る関係づくりを築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者の多くは、地元の出身であり、馴染みの景色と馴染みの場所で現在も暮らしを継続している。住み慣れた地域の中にある施設のため、馴染みの人の訪問もあり、人や場所の関係が途切れることなく生活を送っている。また、遠方の家族には、フェイスブックやライン等を利用し、テレビ電話等にて、コミュニケーションを図れるように努めている。	地元出身の利用者が多いこともあり、地域の方や友人の面会も多く見られている。利用者の中には以前ボランティアで来訪されていた方もおり、馴染みの関係が継続している。また、定期的に家族対応にて馴染みの美容室へ出掛ける利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	コロナ禍の中でこそできることとして、外出レクや食事会等を企画、実施し、利用者同士の関係の支援している。施設所有の近隣の研修センターへのドライブでは、自然の風景、空気を感じたり、いつもとは違う環境の中で、利用者同士の関わりを入居者の負担にならないように職員が見極めながら支援を継続的に実施している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去した入居者やその家族に対して、広報誌を始めとして、関わりを持ち続ける関係づくりを行っている。また、次の入居先や病院への面会等、継続的に実施している。家族との関わりは継続してフェイスブックやラインなどSNSを利用した相談の受付等を実施している。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コロナ禍の中での取り組みとして、家族との連絡や近況報告ができるよう、LINEビデオ通話を開設している。日常的に暮らしの中で困難な場面、楽しんでいる場面の情報の共有に努め、思いの把握に結びつけられるよう、入居者共々家族も一緒に、今後の暮らしの希望等を書面にして考える機会も作り、介護計画書などへ反映させている。	起床、食事などの時間帯に幅を持たせ柔軟に対応し、自宅での生活を継続することが可能となっている。日々のケアの中で得られた情報は申し送りノートにユニットごと色を変え、記載し事業所全体で共有できる体制である。個別外食としてお寿司や自宅へ出掛けた実績もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前のアセスメントやフェイスシート等がある場合には入手し、面接訪問を行う。生活環境や生活歴、馴染みの暮らし、これまでのサービス利用があれば経過等をケース記録に記載している。より多くの暮らしの情報、生活現状の把握に努めている。入居者とのコミュニケーションの中で得た新しい情報を共有し、多方面からの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	集団ケアと個別ケアを介護計画書の中で表記区分し入居者の心身の状況に合わせ日々を流動的に計画的にケアする。心身の状況に合わせ実施したか否かをケアチェック表にて確認し、次の介護計画書へ反映している。介護日誌等を両ユニットで共有し、現状を把握できる工夫をしている。細かな気づきにも職員間で伝達観察していけるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画書は介護職員の中からケース担当者を定め介護支援専門員や看護職員等と共に家族や本人の意向をもとを作成する。全職員の多様な視点から介護の実践を行いケアチェック表をもとにモニタリングを行う。電話や書面でや家族から意見が出せるツールを設け、日々の気付き等もアンケート等で意見をまとめている。</p>	<p>3か月に1度のモニタリングを基本とし、その都度ケアチェック表をもとに見直しを行っている。日々の変化を申し送りノートで周知し、カンファレンスには代表者をはじめ、医療職や家族、本人も同席し、多方面からの様々な意見を集約した介護計画となっている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>記録については、個々のファイルを作成し、介護計画に基づいたプランを実施する。面会の有無その他、日々の変化等を記載し、その記録をもとにケースカンファレンスを開き、実践や介護計画の見直しを実施する。朝夕の申し送りでは、ボールペンの色を変える等して、他ユニットの入居者も把握できるよう、情報の共有化を図っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>サービスの多機能性とし家族との食事の場所等の提供としてラウンジ等を整備し入居者の家族や近隣の方々も参加される音楽会や子供たちのプレイルームや宿題をする等の空間とし子供カフェを整備している。地域交流ホールの開放や要望に多機能的に答えることができるよう施設内外を整備し近隣の商店、菊造り作者にも協力を要請し取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域資源の活用として入居前の介護支援専門員と連携しインフォーマルなケアを実施している。近隣のお好み焼き屋からの配達や、商店からの野菜のおすそ分け等。地域資源との協働で安全安心で豊かな暮らしができるように、支援している。また隣接する社会福祉法人との連携は他には類をみない協働の可能性が拓けていると考えている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>当施設の協力病院は多科であり地域に存在する医師が協力的に対応し24時間オンコールにて対処している。入居者の多くがかかりつけ医を変えず、現在の暮らしを行い、往診や通院を通して馴染みの医師との関わりを大切にしている。区内には公立病院も存在し適切な医療が受けられる。20床以上の入院病棟を持った医療の後方支援体制もできている。</p>	<p>利用開始時に家族・本人に希望を取り、かかりつけ医の選定を行っている。協力医の往診は月2回あり、他科では歯科が週2回、訪問マッサージが週1回実施している。協力医以外の医療機関への受診は家族対応としており、受診時のサポート体制を構築している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>看護職員は介護職員を兼務し24時間のオンコール体制、緊急時は10分以内に到着できる地域住民を配置している。介護、医療の業務を遂行するとともに、各職員とのチーム協力を行っている。また看護職員と介護職員の連携ノートを作成し、日々の変化を情報共有している。隣接する社会福祉法人の看護職員による後方支援は万全である。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入居者の入退院時には施設長または代理人が同行できる体制を作っている。介護情報提供書を早期発行し入院先への情報提供を適切に実施している。退院時には看護サマリーの情報提供を受け、日常生活に対応できるように、共有化を行っている。早期退院に向けての支援や入院時の家族の負担軽減に努力し入院中や入退院時の準備等の支援を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合や終末期の在り方等は、家族と共に考える機会の提供を行っている。終末期に家人が宿泊できる場所もあり、看取り期を共に生活していただいている。居室には好きな音楽をかけたり、好きなお花を飾ったりと少しでもリラックスできる場所となるよう支援している。経口摂取にもこだわり、好きな物を提供する等の支援も行っている。</p>	<p>終末期に向けた希望について利用開始時から状態変化に応じその都度行っている。法人内にゲストルームがあり、宿泊可能で家族に利用者とともに最後の時間を共有できる体制を構築している。台所や家電製品も完備しており、1週間寝食を共にした事例もある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変時の対応方法等を定期的の実施し急変時は119番通報並びに施設長、看護職員への連絡手順を緊急連絡網に記載し、相互の判断で速やかに対応している。吸引機等を完備し状況に合わせ急変や事故発生時に対応できるように、定期的に研修を実施している。委員会を設置し事故報告書等にて発生要因の分析と再発防止策を検討し全職員に回覧している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>一時避難場所の指定を自治会から受け災害時応援協定を地域と締結し、災害時には、100人が3日間寝食ができるよう、非常食や自家発電機等を取り揃えている。火災訓練についても地域と共に広島市消防局の指導のもと実施し、災害時広島市指定緊急避難場所になっている隣接する老人福祉施設への移動の訓練も定期的の実施している。</p>	<p>法人が地域の一時避難場所に指定されており、年2回の消防訓練を消防署員指導のもと、地域住民の参加の上、実施している。今年度は市消防局楽団を招き、演奏会の催しを行った。法人内の報知器は地域の防災無線とも連動しており、災害時の応援体制構築にも寄与している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	施設内年間研修として、人権・同和研修を行っている。ケース担当者を決める際に職員としての視点とより家人に近い視点を考慮している。職員育成にも重きを置き、人として多様な視点を持つことが双方の尊厳たることと考えて取り組んでいる。入居者個々の細部に渡った人格の尊重とプライバシーの確保できるよう、継続的に努力している。	法人内で接遇やプライバシーなどの研修を定期的に行っている。日々の業務の中でインカムを活用することで業務連絡などを小声で行い、尊厳やプライバシーを損なわないケアが可能となっている。トイレでのパット交換は袋に入れて持ち運ぶなど細部にも配慮が行き届いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	集団的ケアと個別ケアを総合的に行い入居者の心身の状況にあわせ支援している。特に入浴や食事については、入居者の意向に沿って自己選択のもと自己決定を行えるよう、一方的な介護とならないように注意している。食事に関しては、嗜好調査を実施している。入浴については、洋服選びからのコミュニケーションを実施するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	共通項目と個別項目を設定し個々の介護計画に沿ってサービスを提供している。食事の提供時間は2時間以内を基本に状況、ペースに沿って提供するシステムとしている。日々の生活を安全安楽を考慮、確保しながら、自らが主体的な生活者として尊厳のある今を過ごせるよう支援している。一日の終わりに笑顔で床に就いて頂くように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居前の状態を把握し、その人らしい整容を実施している。化粧等の介助等、おしゃれを楽しんで頂いている。理容美容の希望に沿って定期的に外部の協力を得ながら取り組み、希望があれば、カットだけではなく、パーマ、カラーもできる。行事の際には、着物も用意し、女性の入居者の方には、色等の好みを聞きながら、着付けをさせて頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	椅子の高さ等を調節し配席にも留意し食事が楽しめるようにしている。契約農家直送の朝採れ野菜を中心に今まで培ってきた生活の知恵を活かしながら、食文化や四季折々の季節を楽しんで頂いている。台所からの音や匂いを大切にし食の意欲へつなげ、野菜の皮むき等、一人ひとりの働ける力を心身の状況に合わせて引き出すよう工夫している。	法人内に調理室があり、各ユニットで配膳を行っている。毎回食器棚から好きな陶器を選び盛り付けることで家庭的な雰囲気ですべてを楽しんでいる。キッチンがフロア中心に配置してあり、食事の準備から片づけまでを中心で行い、各利用者の役割の創出につながっている。	

自己評価	外部評価	項 目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>心身の状況に合わせて水分摂取を無理なくできるようにしている。食事量が低下している入居者については本人が摂取しやすく、統一ではなく、その入居者の生活習慣と栄養バランス、嗜好等を添えた食事の提供を行う。関連施設の管理栄養士等により、相談、援助を実施し、入居者別の状況の連携をとり、健康状態及び栄養面等に配慮した食事に行っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>心身の状況に合わせて口腔内の清潔に努めている。洗面台には、うがい薬を設置しうがいを励行し感染症の予防と嚥下機能の低下を予防する観点から、うがい手洗いを職員と共に実施している。歯科医師等による検診、口腔指導も適宜実施し、歯科医師等より技術的助言及び指導を適宜受け、義歯の着脱、清潔等に努め、個別の口腔ケアを実施している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>心身の状況に合わせて排泄介助を実施している。排泄のパターンや服薬介助を行い継続、改善の方向に働きかけている。個々の排泄パターンを記録し、失禁を未然に防ぐ努力をしている。排便については、総蠕動運動を活発に行うことができるように、入居者にあった介護の方法を生み出して個別の介護計画等に基づき医療職と連携しながら実施している。</p>	<p>排泄チェック表をもとに個々の排泄パターンの把握を行っている。記録をもとに誘導することでオムツからリハビリパンツ、布パンツへの改善事例もある。法人内研修での技術講習もあり、重度化後もトイレでの排泄を継続して行える態勢を構築している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>食事の研修や排泄の研修等生活支援技術講習を実施している。生活支援技術については、基本の確認と個々の入居者に応じた技術向上を目的とし、その原因や及ぼす影響を理解し、適切に対応できる様、研修の回数を重ねる。便秘の予防対策として食事・栄養・水分の3項目に着目し一人ひとりを対象にケースカンファレンスを実施し具体化している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴時間については、原則職員がユニット内に2名以上配置されている時間帯であれば曜日に関係なく入浴できる体制である。1週間のスケジュールを作成している入居者もおり、スケジュールに沿って実施したり、排泄の状態に合わせて入浴する等、心身の状況に合わせて入浴の機会を提供する。入浴後には、肌の保湿が保てるよう支援している。</p>	<p>週2回14時からの入浴を基本とし、時間や回数などは希望により柔軟に対応している。家庭的な雰囲気のある浴室となっており、1対1での対応を行っている。入浴後には保湿クリームを塗り、皮膚トラブル防止にも努めている。ゆず湯や菖蒲湯など季節を感じられる工夫も行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	安眠については必要以外の薬に 頼らず、話を聞いたり、室温・ 湿度・採光に気を配り自然な流 れで床に就くよう心掛けてい る。不眠時はお茶などの提供が 容易にできる設備を設け、昼夜 逆転が無いよう日中の生活を個 々に合わせ活動的に行う。朝日 に当たる、外気に触れる等、自 然と体とのトータル的な関わり を重視し安眠へつながるよう努 力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	服薬管理は原則職員が実施して いる。薬に対する説明や相談を 日々受けられる環境を整え安心 して医療支援を受けることができ る。個人用のボックスを用意し 、お薬手帳と合わせ薬に対して 副作用を管理する。医療研修等 を開催し薬の副作用について理 解できるようにし服薬変更後は 記録に入力するよう心掛け、 変更後の様子に注視している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	コロナ禍の中で行事開催も見合 わせる日々があるが、外出の機 会等を絶やさないよう、施設所 有の研修センターへのドライブ や食事会等を定期的実施して いる。変わりゆく四季の風景を 直接感じていただける良い機 会となり、入居者の方々も喜 ばれている。あわせて、施設 内においても、感染症対策を講 じながら、法話等については 実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援して いる。	コロナ禍の中だからできない ではなく、感染症対策を講じた 中でそこでの外出支援を考え、 実践している。日常的な外出 支援としては、施設周辺での 散歩や庭先の花を見る等、光 や風を感じられる場所へ出る 意味を考え、ケアへの位置づ けを行っている。天気の良い 日には、デッキへ出て、体操 をしたり、お茶の時間を楽し んでもらう等している。	コロナ禍のため日常的な外出 は難しくなっているが、ユニ ット間のデッキでのお茶会や 歌の会など外気浴を実施して いる。また、法人の研修セン ターへ調理師同行のもと外出 し、食事をするなどで非日常 を楽しむなど新たな外出支 援構築に尽力している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一 人ひとりの希望や力に応じて 、お金を所持したり使えるよ うに支援している。	ユニット内には金銭の持ち込み は禁止し小口現金として事務 室金庫にて個別に保管するこ とにより入居者の安心につな がるよう全職員が共通理解を し実施している。外出先での 買い物等に関して本人が販売 員にお金を払う等直接的に 金銭のやり取りができるよう 支援している。売店販売を行 っており、毎朝散歩がてらに 購入する入居者もいる。		

自己評価	外部評価	項目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	書道教室で書いた年賀状を出したり家人の協力の上自らが電話をしたり、手紙を出したりできる支援を行っている。施設内売店により便箋等も購入することができる。郵便番号や電話番号を一緒に調べたり、入居者の方に合わせた方法にて、支援を行っている。ラインビデオ電話も開通し、面会制限に対応し、活用していただいた。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室と共同生活室の距離を心身の状況に合わせて入居時に決めている。居室には室名札等は一切使用せず、家庭的な空間づくりを心掛けている。暮らしの空間である居室や共同スペース等には、生活の音以外は持ち込まないようにしている。業務用機器を使わず、どこの家庭にもある物や風景、食事の香りを大切に、全居室に手洗いを設置している。	ユニット内は「自宅ではどうか」ということを大切に特段の壁画や作品類は掲示していない。天井も高く、開放的でキッチンを中心に家庭的な雰囲気の共有スペースである。机、椅子も複数用意することで利用者の体に合ったもので食事や活動を楽しんで頂ける工夫を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	2ユニットを平屋に設置し両ユニットの行き来を入居者ができるように整備した。気の合った入居者同士で過ごすことができ、全室個室であるため一人になれたり、他の入居者を招き入れたりすることを日常的に行っている。畳廊下等にセミパブリックスペースを設置し各々の居場所づくりを可能とし、中庭に出て外気に触れ飲食をすることもできる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居にあたっての原則を本人又は家人が施設見学を実施してからとしている。このことにより、何度も施設内や居室を見に来て本人と家人が相談しながら使い慣れたものやカーテン等の持ち込みを行っている。また、家人が遠方であったり来設が困難な場合は、季節に応じた家庭用品の購入を職員と共に実施する等、柔軟な対応を実施している。	各部屋備え付けとしてベット、エアコン、照明がある。希望により畳を敷き、布団での生活も可能で照明についても自宅で使用していたものを持参する利用者もいる。中には嫁入り道具のソファを持ち込み、入居後も本人が落ち着ける場所の確保につながっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレを狭く整備し転倒防止と安全で自立して排泄できる工夫を整備した。ミストサウナ等を整備し心身に負荷をかけず入浴を楽しめる。キッチンを共同生活室の中央部にし大空間の中に手すりをつけ自立した行動範囲を拡大し、食事作りの参加や香りや音等を楽しめる。ユニット間を繋ぐ畳廊下等は安全で、自立した生活が送れるようにしている。		

V アウトカム項目(金刀比羅) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域への貢献・社会福祉を担う者の育成を使命とし開放された施設運営を心掛ける。職員全員で施設の理念を共有し、実践につなげるため、立ち止まる場所、振り返る場所は「施設理念」であると伝え続けている。また、朝・夕の申し送り時、各会議開始時は理念の唱和を行い、職員間の意識を高めている。また、ユニット内にも理念を掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	年間を通じて広報誌を発行し、近隣地域へ新聞の折り込みに入れ、広報している。SNSによる発信も行っている。コロナ禍で行事も難しいが、駐車場を開放し、保育園との交流や、小学校の福祉学習の場の提供は継続している。感染症対策予防を講じる中でこそ、今しかできない、今だからできることにこだわっての交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	AED使用方法、防火・防災訓練を地域合同にて実施している。継続した介護職員初任者研修講座を実施している。施設長は、広島県全域にて地域包括支援センター、教育機関、一般財団法人、各種団体企業と連携を図り、認知症講座を開催している。介護職員の現任、初任者研修講師として啓蒙活動を積極的かつ継続的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議や家族会にて施設サービスの報告を行っている。今後、計画している行事予定などの情報交換を行い、そこで出された意見を再考し、反映させている。コロナ禍において、書面での家族会の開催が継続しているが、面会時やサービス担当者会議時には、ご家族の意見を聞かせていただいている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	広島市・広島県の福祉関係機関担当者等との連絡、連携をとり、事業所の実績やケアサービスの取組みについて協力関係を構築している。また、運営推進委員等との連携を計画的に図るため、広報誌を配布し、毎月の行事案内をSNSを利用し、連絡を密にしている。		

自己評価	外部評価	項 目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	委員会を中心とし、年間を通じて各研修を計画的に実施し、身体拘束の研修やコンプライアンスを主とした研修等を行い指定基準の禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解するように努めている。また夜間並びに休日の事務職員不在時は、入居者の安全確保と防犯上の観点から暮らしの空間とその他の空間を施錠するがその他の時間帯は行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	尊厳あるケアの提供に努め、虐待、人権同和研修を施設内で行い施設外での研修への参加も行う。職員が自己研鑽できる環境で虐待などを見過ごすことがないように注意し、勇気を持って発言できる環境、防止に努め、豊かな人間性の育成、職員指導に重きを置き言葉による虐待もあることを職員間で日々意識し未然に防げるように対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見人がいる入居者について個々の必要性を関係者と話し合い、日々の状況をライン等にて報告すること等を実施している。入居者の状況と家人の思いが大幅に異なる場合等は、昼夜にわたり後見人と連絡を密にし、状況の共有を図る。管理者のみが家人等へ連絡するのではなく担当職員が家人へ毎月手紙を出す等、全職員で個々に応じた接点を持つ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関する説明と同意について最低2時間を使い、契約までに入居者、家人の見学を原則とし入居者本人の納得の上で家人と共に、入居に向けて分かりやすく説明を行い、理解・納得を得られるように努めている。また不安や疑問点を尋ねやすい状況を作るために連絡しやすい環境を個々に設置し、意見や要望を日々受け付けられるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍で会議開催を見送る状況が継続しているが、書面にて、入居者や家人の意見や要望を受け入れ、運営に反映する努力をしている。外部評価の受審により家人に対する匿名アンケートや職員個々がアウトカム項目のチェックを実施することで現在の運営を振り返ると共に、さらに基本を大切に自己確認をする機会を得ている。		

自己評価	外部評価	項目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日の朝夕礼、週単位で実施される連絡会議、月1回実施される、主任会議、経営会議、職員会議、レクカンファレンス、ケースカンファレンス、委員会会議等、適宜実施されるユニットカンファレンス、職員個別面接等を実施している。また、職員の意見を反映し、ピザやラーメンの出店を施設内で行い、実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面接・経験値等を考慮して給与や分掌を精査している。不得意な部分を積極的に指導するのではなく個々の得意な事を業務に活かせるよう区分し付帯的に不得意な業務が向上できる努力をしている。有資格者の確保と常勤職員の登用により介護職員処遇改善加算を毎月支給している。有給休暇に関しては有給休暇管理簿にて管理し、シフトを作成している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内研修を定期的に行い、適宜施設外研修に参加する等、職員教育を実施している。認知症実践者、リーダー研修を年間1名以上施設負担にて受講できるようにし、キャリア段位制度におけるOJTを実施する評価者を施設内に配置している。独自の目標管理シートにより、個別面接を定期的に行い、個々のスキルアップへの取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域包括支援センター等同業者との交流、ネットワークづくりや、介護支援専門員等の勉強会等に施設提供を行うことにより、サービスの向上を図る取り組みを実施している。また、隣接する介護老人福祉施設、地域の小学校・保育園等とのネットワークづくりに努め、相互のサービスの質を向上させる取り組みを実施している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にはご本人の生活している環境の確認、面談を行い、現在の状況を把握し不安の解消の礎となるよう努力する。原則本人が居室環境の選択並びに決定を行い、入居日には、本人の希望や不安なこと等を担当者がアセスメントし、ケース担当者等と共に、ケースカンファレンス後、ケア計画書を作成し、本人や家族へ説明同意を実施している。		

自己評価	外部評価	項 目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設見学やインテーク並びに自宅訪問については事前にアポイント時間を3時間設定し、ゆとりをもって接することを心掛けている。契約時は要望や気づきを相互に耳を傾けられるよう、環境を整えている。また、施設長との連絡を24時間可能としており、メール、電話、SNSを利用した関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居開始では地域包括・居宅や入院先等の照会、引っ越し業者の紹介等を行うなど、個々の必要としている支援を実施している。また、入居対象とならない入居希望者には、他施設等の紹介、一時的に医療が必要な場合には、その関係機関並びに本庁関係課に照会をかける等、本人や家族が必要としているものを早期に対応する努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者のタイムテーブルについて、時間を決めることなく、入居者と共に暮らす生活を送れるような関係づくりを築けるよう、努力している。入居者が職員と共に主体的な生活者としてサービスを利用し続けられることができるように、計画している。また、できることはしっかり声掛けを行い、お手伝い等を行っていたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍の中であっても、感染症対策を講じ、家族面会を1日3組と限定し実施している。あわせて、看取り期の入居者のご家族については、面会制限を設けず、対応している。一方的な介護とならないように、入居者の担当職員から毎月手紙を送付し、家人と共にケアできるきっかけを日々探る関係づくりを築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者の多くは、地元の出身であり、馴染みの景色と馴染みの場所で現在も暮らしを継続している。住み慣れた地域の中にある施設のため、馴染みの人の訪問もあり、人や場所の関係が途切れることなく生活を送っている。また、遠方の家族には、フェイスブックやライン等を利用し、テレビ電話等にて、コミュニケーションを図れるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	コロナ禍の中でこそこできることとして、外出レクや食事会等を企画、実施し、利用者同士の関係を支援している。施設所有の近隣の研修センターへのドライブでは、自然の風景、空気を感じたり、いつもとは違う環境の中で、利用者同士の関わりを入居者の負担にならないように職員が見極めながら支援を継続的に実施している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去した入居者やその家族に対して、広報誌を始めとして、関わりを持ち続ける関係づくりを行っている。また、次の入居先や病院への面会等、継続的に実施している。家族との関わりは継続してフェイスブックやラインなどSNSを利用した相談の受付等を実施している。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コロナ禍の中での取り組みとして、家族との連絡や近況報告ができるよう、LINEビデオ通話を開設している。日常的に暮らしの中で困難な場面、楽しんでいる場面の情報の共有に努め、思いの把握に結びつけられるよう、入居者共々家族も一緒に、今後の暮らしの希望等を書面にして考える機会も作り、介護計画書などへ反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前のアセスメントやフェイスシート等がある場合には入手し、面接訪問を行う。生活環境や生活歴、馴染みの暮らし、これまでのサービス利用があれば経過等をケース記録に記載している。より多くの暮らしの情報、生活現状の把握に努めている。入居者とのコミュニケーションの中で得た新しい情報を共有し、多方面からの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	集団ケアと個別ケアを介護計画書の中で表記区分し入居者の心身の状況に合わせ日々を流動的に計画的にケアする。心身の状況に合わせ実施したか否かをケアチェック表にて確認し、次の介護計画書へ反映している。介護日誌等を両ユニットで共有し、現状を把握できる工夫をしている。細かな気づきにも職員間で伝達観察していけるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画書は介護職員の中からケース担当者を含め介護支援専門員や看護職員等と共に家族や本人の意向をもと作成する。全職員の多様な視点から介護の実践を行いケアチェック表をもとにモニタリングを行う。電話や書面でや家族から意見が出せるツールを設け、日々の気付き等もアンケート等で意見を集めている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>記録については、個々のファイルを作成し、介護計画に基づいたプランを実施する。面会の有無その他、日々の変化等を記載し、その記録をもとにケースカンファレンスを開き、実践や介護計画の見直しを実施する。朝夕の申し送りでは、ボールペンの色を変える等して、他ユニットの入居者も把握できるように、情報の共有化を図っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>サービスの多機能性とし家族との食事の場所等の提供としてラウンジ等を整備し入居者の家族や近隣の方々も参加される音楽会や子供たちのプレイルームや宿題をする等の空間とし子供カフェを整備している。地域交流ホールの開放や要望に多機能に答えることができるよう施設内外を整備し近隣の商店、菊造り作者にも協力を要請し取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域資源の活用として入居前の介護支援専門員と連携しインフォーマルなケアを実施している。近隣のお好み焼き屋からの配達や、商店からの野菜のおすそ分け等。地域資源との協働で安全安心で豊かな暮らしができるように、支援している。また隣接する社会福祉法人との連携は他には類をみない協働の可能性が拓けていると考えている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>当施設の協力病院は多科であり地域に存在する医師が協力的に対応し24時間オンコールにて対処している。入居者の多くがかかりつけ医を変えず、現在の暮らしを行い、往診や通院を通して馴染みの医師との関わりを大切にしている。区内には公立病院も存在し適切な医療が受けられる。20床以上の入院病棟を持った医療の後方支援体制もできている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>看護職員は介護職員を兼務し24時間のオンコール体制、緊急時は10分以内に到着できる地域住民を配置している。介護、医療の業務を遂行するとともに、各職員とのチーム協力を行っている。また看護職員と介護職員の連携ノートを作成し、日々の変化を情報共有している。隣接する社会福祉法人の看護職員による後方支援機能を保持している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入居者の入退院時には施設長または代理人が同行できる体制を作っている。介護情報提供書を早期発行し入院先への情報提供を適切に実施している。退院時には看護サマリーの情報提供を受け、日常生活に対応できるように、共有化を行っている。早期退院に向けての支援や入院時の家族の負担軽減に努力し入院中や入退院時の準備等の支援を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合や終末期の在り方等は、家族と共に考える機会の提供を行っている。終末期に家人が宿泊できる場所もあり、看取り期を共に生活していただいている。居室には好きな音楽をかけたり、好きなお花を飾ったりと少しでもリラックスできる場所となるよう支援している。経口摂取にもこだわり、お好きな物を提供する等の支援も行っている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変時の対応方法等を定期的の実施し急変時は119番通報並びに施設長、看護職員への連絡手順を緊急連絡網に記載し、相互の判断で速やかに対応している。吸引機等を完備し状況に合わせ急変や事故発生時に対応できるように、定期的に研修を実施している。委員会を設置し事故報告書等にて発生要因の分析と再発防止策を検討し全職員に回覧している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>一時避難場所の指定を自治会から受け災害時応援協定を地域と締結し、災害時には、100人が3日間寝食ができるよう、非常食や自家発電機等を取り揃えている。火災訓練についても地域と共に広島市消防局の指導のもと実施し、災害時広島市指定緊急避難場所になっている隣接する老人福祉施設への移動の訓練も定期的実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	施設内年間研修として、人権・同和研修を行っている。ケース担当者を決める際に職員としての視点とより家人に近い視点を考慮している。職員育成にも重きを置き、人として多様な視点を持つことが双方の尊厳たることと考えて取り組んでいる。入居者個々の細部に渡った人格の尊重とプライバシーの確保できるよう、継続的に努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	集団的ケアと個別ケアを総合的に行い入居者の心身の状況にあわせ支援している。特に入浴や食事については、入居者の意向に沿って自己選択のもと自己決定を行えるよう、一方的な介護とならないように注意している。食事に関しては、嗜好調査を実施している。入浴については、洋服選びからのコミュニケーションを実施するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	共通項目と個別項目を設定し個々の介護計画に沿ってサービスを提供している。食事の提供時間は2時間以内を基本に状況、ペースに沿って提供するシステムとしている。日々の生活を安全安楽を考慮、確保しながら、自らが主体的な生活者として尊厳のある今を過ごせるよう支援している。一日の終わりに笑顔で床に就いて頂くように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居前の状態を把握し、その人らしい整容を実施している。化粧等の介助等、おしゃれを楽しんで頂いている。理容美容の希望に沿って定期的に外部の協力を得ながら取り組み、希望があれば、カットだけではなく、パーマ、カラーもできる。行事の際には、着物も用意し、女性の入居者の方には、色等の好みを聞きながら、着付けをさせて頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	椅子の高さ等を調節し配席にも留意し食事が楽しめるようにしている。契約農家直送の朝採れ野菜を中心に今まで培ってきた生活の知恵を活かしながら、食文化や四季折々の季節を楽しんで頂いている。台所からの音や匂いを大切に食の意欲へつなげ、野菜の皮むき等、一人ひとりの働ける力を心身の状況に合わせて引き出すよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>心身の状況に合わせて水分摂取を無理なくできるようにしている。食事量が低下している入居者については本人が摂取しやすく、統一ではなく、その入居者の生活習慣と栄養バランス、嗜好等を添えた食事の提供を行う。関連施設の管理栄養士等により、相談、援助を実施し、入居者別の状況の連携をとり、健康状態及び栄養面等に配慮した食事に行っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>心身の状況に合わせて口腔内の清潔に努めている。洗面台には、うがい薬を設置しうがいを励行し感染症の予防と嚥下機能の低下を予防する観点から、うがい手洗いを職員と共に実施している。歯科医師等による検診、口腔指導も適宜実施し、歯科医師等より技術的助言及び指導を適宜受け、義歯の着脱、清潔等に努め、個別の口腔ケアを実施している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>心身の状況に合わせて排泄介助を実施している。排泄のパターンや服薬介助を行い継続、改善の方向に働きかけている。個々の排泄パターンを記録し、失禁を未然に防ぐ努力をしている。排便については、総蠕動運動を活発に行うことができるように、入居者にあった介護の方法を生み出して個別の介護計画等に基づき医療職と連携しながら実施している。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>食事の研修や排泄の研修等生活支援技術講習を実施している。生活支援技術については、基本の確認と個々の入居者に応じた技術向上を目的とし、その原因や及ぼす影響を理解し、適切に対応できる様、研修の回数を重ねる。便秘の予防対策として食事・栄養・水分の3項目に着目し一人ひとりを対象にケースカンファレンスを実施し具体化している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴時間については、原則職員がユニット内に2名以上配置されている時間帯であれば曜日に関係なく入浴できる体制である。1週間のスケジュールを作成している入居者もおり、スケジュールに沿って実施したり、排泄の状態に合わせて入浴する等、心身の状況に合わせて入浴の機会を提供する。入浴後には、肌の保湿が保てるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	安眠については必要以外の薬に 頼らず、話を聞いたり、室温・ 湿度・採光に気を配り自然な流 れで床に就くよう心掛けてい る。不眠時はお茶などの提供が 容易にできる設備を設け、昼夜 逆転が無いよう日中の生活を個 々に合わせ活動的に行う。朝日 に当たる、外気に触れる等、自 然と体とのトータル的な関わり を重視し安眠へつながるよう努 力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	服薬管理は原則職員が実施して いる。薬に対する説明や相談を 日々受けられる環境を整え安心 して医療支援を受けることができ る。個人用のボックスを用意し 、お薬手帳と合わせ薬に対して 副作用を管理する。医療研修等 を開催し薬の副作用について理 解できるようにし服薬変更後は 記録に入力するよう心掛け、 変更後の様子に注視している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	コロナ禍の中で行事開催も見合 わせる日々があるが、外出の機 会等を絶やすことがないよう、 施設所有の研修センターへのド ライブや食事会等を定期的にあ らゆる季節の風景を直接感じて いただける良い機会となり、入 居者の方々も喜ばれている。あ わせて、施設内においても、 感染症対策を講じながら、法話 等については実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。	コロナ禍の中だからできないで はなく、感染症対策を講じた中 でこそできる外出支援を考え、 実践している。日常的な外出支 援としては、施設周辺での散歩 や庭先の花を見る等、光や風を 感じられる場所へ出る意味を考 え、ケアへの位置づけを行って いる。天気の良い日には、デッ キへ出て、体操をしたり、お茶 の時間を楽しんでもらう等して いる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	ユニット内には金銭の持ち込み は禁止し小口現金として事務室 金庫にて個別に保管をすること により入居者の安心につながる よう全職員が共通理解をしまし て実施している。外出先での買 い物等についても本人が販売員 にお金を払う等直接的に金銭の やり取りができるよう支援して いる。売店販売を行っており、 毎朝散歩がてらに購入する入居 者もいる。		

自己評価	外部評価	項 目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	書道教室で書いた年賀状を出したり家人の協力の上自らが電話をしたり、手紙を出したりできる支援を行っている。施設内売店により便箋等も購入することができる。郵便番号や電話番号を一緒に調べたり、入居者の方に合わせた方法にて、支援を行っている。ラインビデオ電話も開通し、面会制限に対応し、活用していただいた。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室と共同生活室の距離を心身の状況に合わせて入居時に決めている。居室には室名札等は一切使用せず、家庭的な空間づくりを心掛けている。暮らしの空間である居室や共同スペース等には、生活の音以外は持ち込まないようにしている。業務用機器を使わず、どこの家庭にもある物や風景、食事の香りを大切に、全居室に手洗いを設置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	2ユニットを平屋に設置し両ユニットの行き来を入居者ができるように整備した。気の合った入居者同士で過ごすことができ、全室個室であるため一人になれたり、他の入居者を招き入れたりすることを日常的に行っている。畳廊下等にセミパブリックスペースを設置し各々の居場所づくりを可能とし、中庭に出て外気に触れ飲食をすることもできる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居にあたっての原則を本人又は家人が施設見学を実施してからとしている。このことにより、何度も施設内や居室を見に来て本人と家人が相談しながら使い慣れたものやカーテン等の持ち込みを行っている。また、家人が遠方であったり来設が困難な場合は、季節に応じた家庭用品の購入を職員と共に実施する等、柔軟な対応を実施している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレを狭く整備し転倒防止と安全で自立して排泄できる工夫を整備した。ミストサウナ等を整備し心身に負担をかけず入浴を楽しめる。キッチンを共同生活室の中央部にし大空間の中に手すりをつけ自立した行動範囲を拡大し、食事作りの参加や香りや音等を楽しめる。ユニット間を繋ぐ畳廊下等は安全で、自立した生活が送れるようにしている。		

V アウトカム項目(厳島) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームこころ

作成日 令和3年9月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	26	ケアの統一。	個々のプランを全職員が把握する。	情報の共有ができる様申し送りノートや口頭での伝達を確実に行う。	3ヶ月
2	19	コロナ禍により面会できない状況が有る。	日々の様子を知ってもらう。	こまめに家族に連絡をする。電話を利用し家族と会話できる機会を作る。	3ヶ月
3	21	コロナ禍における入居者さんの楽しみを見つける。	日々の中で皆で楽しめる様に工夫する。	職員とのスキンシップや会話、レクへの取り組み。	6ヶ月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。